



特集 山の学校訪問日記

第3回総会・現地報告会開催のお知らせ

別紙■第3回総会・現地報告会のご案内/「ばあーる」アンケートのお願い



雲解け水の激流に架かった橋を渡って、過学するシャボナ(2年生)

山の学校支援の会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。5月末、私は3回目の公式訪問を終え、帰国いたしました。現地では、識字教育のパートナー・オフファリン(独NGO)への訪問、発電機の購入、校庭用地の打ち合わせなどの用を、短い期間の中で、なんとかこなすことができました。

山の子どもたちとも1年ぶりに再会できましたが、カブールや県庁所在地のバザラックに転校してしまつた子の多さに驚きました。入れ代わりにはほぼ同数の転校生がやってきて、現在、生徒数は中学の1学年を含めると168名ほどに。子どもたちは皆、背が伸びていましたが、衣類や靴は相変わらずすくたびれ、前にプレゼントした通学用のリュックサックもかなり傷んで、また送る必要性を感じました。

購入した車は3年目に入りましたが、バンク、故障、高騰するガソリン代と出費はかさんでいます。ただ、女の先生や片足の生徒、用務員さんに乗せるだけでなく、昨年だけで30人ほどの急患を町まで運んでいる地域の人々の唯一の足を、今なくすことはできません。困難はあつても何とか維持していきたいと思っています。

私が滞在を終え、帰国した直後、首都カブールで、米軍の市民への発砲事件に端を発した暴動が起こり、外国人住居への焼き打ちという事態が起きました。失業率が40%以上、復興もなかなか進まない中、政府要人だけが私腹を肥やす現実への怒りが背景にあつたようです。私たちはアフガニスタンの国全体をどうこうするというような大きなことはできませんが、今続けている支援を確実に続けていかなければと思います。それが、子どもたちや地域の人々に復興と平和を実感してもらおうことにもなるはずです。これからも皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

長谷川洋海

「山の学校訪問日記」

5月12日から21日にかけて、長倉代表がアフガニスタンを訪問しました。山の学校では子どもたちの笑顔に再会し喜ぶ一方、とても悲しい知らせもありました。現地での支援の模様、子どもたちや先生、親たちとの交流の様子をお届けします。



5月12日(金)・13日(土)

經由地のパキスタン・イスラマバードは40度を超える酷暑。13日に到着した首都カブールも1800mの高度なのに思いのほか暑い。地球温暖化のせいだろうか。

迎えに来てくれたサフダル校長、運転係のヨシム先生と合流。その日に識字教育の提携先オッフアリンにピーター代表を訪れ、1年分の経費を渡し、授業の様子を聞く。2クラスにそれぞれ15〜20人が通い、授業はサフダルの協力のもと順調に運営されているという。ただ、女性ばかりのクラスのため、男性の私は教室を見学できないのが残念だ。いずれ、安井さんに写真を撮ってもらい、報告できればと思う。

14日(日)

発電機、蛍光灯、延長コード、子どもたちへのノート、筆記具、画用紙などを購入し、午後、パンシールへ向かう。



発電機が到着。子どもたちもワクワク

途中の道路もパンシール峡谷内も、道路工事が進んで道が良くなり、いつもより短い4時間で、県の中心バザラックへ到着。が、車の調子が悪い、何度も止まっては水をかけエンジンを冷やす。エンジンも一発でかからない。バザラックに着くなり、マシードの運転手をしていたマドガウスに車を見てもらうが、「あと1年持つかどうか。パンシールでは車は2年くらいしか持たない」という。新しい車をすぐ買い替える予算はないし、胃が痛くなる。

アブドラ(前外務大臣)の家でバラを摘み、マシードの墓参りに向かう。廟は工事の真っ最中。多くの人々が訪れることができる立派なものに改装中だが、工事の音がうるさくて、マシードもゆつくり寝ていられないのではないかと思う。旧知の地元有力者サーズディン(前)の家にあいさつに寄ると、「今、雪解けでポーランド川はすさまじい水量で、道にもあふれているので、朝に出発した方がいい」とのアドバイスに、泊めてもらうことに。前に仲介依頼した校庭用地の件は、土地が20名に相続され、中には法外な値をいう人もいるので、校庭裏の空き地も視野に入れようと話し合う。

15日(月)

早朝、学校に到着。子どもたちが次々と登校してくる。皆、「オマール(私の通称)来たんだね」と声を掛けてくる。が、会話を楽しみにしていた赤いほっぺのゼケルラーがバザラックに引越していたし、今度こそ5年生になつていくはずと期待していた、サタール(校長の長男)は学校をやめ、カブールの自動車修理の町工場で働いていると聞いてびびくり。4年生を2度も落第してしまい、本人がやめることを希望したのだという。

うれしいこともあった。母親を亡くして、遠くのおばあちゃんの家に預けられていたジュマ・ハーンが戻ってきたのだ。そして、何より、たくさんの新1年生の元気な顔を見ると、私の寂しさも吹き飛んだ。

16日(火)

早朝5時、放牧する子どもたちについて山へ。息が切れ、何度か脱落しそうになるが、何とか牧草地へ。あふれる緑と野の花が美しかった。セリのような山菜を子どもたちはおいしそうに食べている。朝食後、50分歩いて学校へ向かい、1年生にリュックサックや筆入れを配る。固い表情の子に、サフダルが「笑顔、笑顔」というと、子どもたちはニカッと笑顔を



教室の壁には子どもたちから日本に贈られた絵がずらりと貼られていた。その純真さに思わず感動。

教室の壁に会報や持参した日本の子どもたちの絵を貼ったり、新しく持参した本を図書コーナーに並べ、古い本に整理番号を付ける。その日は、読書の授業を見学。表では、プラスチックの簡易椅子に座って水彩画を描く授業も行われ、子どもたちは楽しそうだった。

子どもたちに昨年の写真を配る。30名ほどが転校してしまっていた。余った写真がある一方で、「どうして、多くの写真はないの」と泣きそうなお顔を訴えてくる子がいる。全員の分を用意したと思っていたから残念。今度、校長に送るからと謝る。会報4号で「将来は大統領になり



図書の授業で、水彩画を描く

「たい」と話していた大柄なハーンの写真が残ったので、「今日は休み？」と尋ねると、先生のドストが「彼はシャヒード（殉教者）になった」という。一瞬、耳を疑い、聞き直したが、「彼は死んでしまった」というのだ。「明け方の礼拝時、隣家のランプの油から家の中の干し草に火がついて火事になった。その火が、壁の中に隠されていた武器弾薬に引火し、爆発。ハーンとその姉の2人がその爆発のせいで死亡した。その弾薬は、80年代、侵攻してきたソ連軍と戦うためのものだったが、それを壁の中に隠した戦士もすでに死んでいて誰もわからなかった」という話だった。それはつい4か月前のこと。私は言葉がなかった。ただ、悲しく、つらかった。戦争が終わり、再建が始まって5年。どうして、今ハーンが犠牲にならなければならないのか……。彼の人懐っこい笑顔が浮かんでくる。子どもたちの夢をかなえる支援をしたいと始めた学校支援だったが、ハーンがこんな形で逝ってしまうなんて。父親は「はかの家族は助かった。これも神の定めなのかも知れない」と肩を落とした。そういえば、サフダルの隣家のやんちゃ坊主のカーティブ（ポーランドの小さな仲間たち「参照」の父親は、息子の歳の割にはずいぶん老けているなあと思っていた



爆発で崩れ落ちた、ハーンの家

のだが、今回初めて、彼が爆撃で、最初の妻と2人の娘を同時に失っていたことを知った。カーティブは再婚した妻と子どもだったのだ。一見、平和に見えるポーランドだが、人々は今も、「戦争」を心の奥深くに抱えている。

17日(水)

発電機の試運転。教室を蛍光灯が照らすと、子どもたちから歓声が上がると、曇りの日でも、これで勉強が続けられる。みんなに日本に持っていく絵を描いてくれるように頼む。自分や家族、牛や羊、風景など、自分が感じたものを描いて頼んだ。どんな絵が出来上がるか楽しみだ。



蛍光灯に照らされ、明るくなった教室

新1年生たちの写真を撮り、インタビューをするうちに下校時間の12時に、帰り際、子どもたちがそれぞれに私の手を引っぱり、「家にきて、昼食を食べて」といつてくれる。「肉はあるの」と聞くと、「肉もあるからさ、ねえ」と私の気を

引く。山間の地域では、肉は下の町でしか買えない贅沢品で、滅多に口にできない。嘘かもしれないが、懸命に誘ってくれるのがうれしかった。

18日(木)

サフダルが「1人雇った夜警の給与支援をしてほしい」と切り出す。3人も用務員がいるじゃないかと渋る私。が、道が良くなったためにいろいろな人が来るようになり、先日もコンテナの鍵が壊され、中の物が盗まれたという。「日本に帰って相談する」と返事を引き延ばすが、いざ認めざるを得ないだろうなあと思う。以前、地雷で足を切断した用務員のメザメディンが足を再手術するというので見舞金を出す。

19日(金)

学校の父兄や地域の人々に集ってもらい、今の支援についての意見を聞く。父親を中心に26人が集まる。「子どもたちは百年たつても、支援のことは忘れないだろう。私も死ぬまで忘れない」「アフガニスタン一番のすばらしい学校にしてくれて感謝している」というお礼の言葉と同時に、「病院がないので医薬品が学校にあれば」「コンピューター教育を」などの意見が出る。校庭用地取得の経緯を話すと、地主たちはほとんど、ここにいない人だという。一人の老人が「離れたところにある自分の土地とそこを交換するように話したけど応じてもらえなかった」と申し訳なきさうにいつてくれ

たのがうれしかった。「これは私の学校ではなく、村の学校なのですから、あなたたちが主体なのです」と以前からの言葉を繰り返して、土地を入手したら、父兄が協力して整地することを提案する。みんながうなずいてくれた。

20日(土)

私がカブールに帰ると聞いた子どもたちがさまざまな物を持ち寄ってくれる。コルト（固形チーズ）やタルハーン（桑の実をすり固めたもの）、クルミ、乾燥アズンズ、中には、バケツのような大きなタッパーいっぱいのおヨーグルトを持ってきた子どももあった。全部を日本に持ち帰ることはできないが、子どもたちの気持ちに胸がいつぱいになる。「また、来てね」「今度はいつ来るの」「日本のみんなによろしく」。瞳を見開いた子どもたち一人ひとり、握手をしながら、「絶対に、また来るよ。また会おうね」「しっかりと勉強してよ」と言葉を交わす。

21日(日)

カブールで、マスードの弟で副大統領ジアの公邸を訪れる。サフダルが倉庫代わりにコンテナが欲しいというので一緒に頼みにいったのだ。買えば5000ドルもするらしいが、ジアは快諾。これで、今回の訪問の主だった仕事が終わわり、安堵した。

ながくらひろみ●本会代表、写真家、1952年創設市生まれ、世界の紛争地を訪ね、そこに生きる人々の姿を追う。92年「マスード」愛しの大地アフガンで第12回土庫賞受賞、2005年「ザビット」一家を建てた、第36回講談社出版文化賞写真賞受賞。

第3回総会・現地報告会開催のお知らせ
知る・出会う・つながる…
そして広がる!

日時：10月9日(月) 12時30分より
会場：東京・武蔵野芸能劇場(JR三鷹駅)

総会では1年間の活動・会計報告のほか、Q&Aの時間も設け、皆さんの疑問にお答えしたり、ご提案をいただいたりと今後の活動について一緒に考える機会にしたいと思っています。昨年までは会員限定でしたが、今年から一般の方もご参加いただけます。ぜひお誘い合わせの上ご来場ください。

続く現地報告会は、長倉代表がこの5月にアフガニスタン、山の学校を訪問した際に撮影してきた写真を紹介しながらのスライドトーク。今年はどうな報告会となるでしょうか。お楽しみに!

また、交流会ではお茶を飲みつつ、会員と一般の方、そしてスタッフが集い、山の学校の子どもたちに心を寄せる仲間同士がつながっていくきっかけになればと思います。今年は長倉代表も皆さんとの語らいに加わります。ご参加をお待ちしています!

★関西方面の会員の方はもちろんどうぞ、代表によるスライドトークと、交流会があります。ぜひお出掛けください!

【現地報告会&交流会】

日時：10月21日(土) 14時30分より

会場：大阪・高槻現代劇場

(阪急高槻市駅・JR高槻駅)

詳細については別紙をご覧ください。

シーズン前の手袋募集に
心強い「救いの手」

会員からのご紹介で、手袋・バッグメーカーの株式会社スワニー(本社・香川県東かがわ市)様より、手袋210組をご提供いただきました。



水汲みや家畜の世話、雪かきなど、外での手伝いの多い子どもたちにはとても喜ばれます。今回はなかなか数が集まらず困っていたので、提供のお申し出はまさに救いの手でした。今後も継続してご協力いただけたら、とても感謝しています。

カルザイ大統領来日

「継続した国際支援を」



7月5日、「アフガニスタンの『平和の定着』に関する第2回東京会議」出席のため来日したカルザイ大統領の歓迎パーティーが外務省にて開かれ、本会からも代表2名が招待され、出席しました。

また7日に国連大学(渋谷区)で行われた講義で、カルザイ氏は日本や国際社会の支援に対する感謝の言葉を述べるとともに、治安や貧困、麻薬の問題、そしていまだ20万人の子どもが学校に行くことができない現状にも触れ、今後も継続した国際支援が必要とのメッセージを訴えました。

山の学校の写真集登場!!

『アフガニスタン 山の学校の子どもたち』

長倉洋海著・撮影 傑成社 1800円(税別)

山の学校の子どもたちの写真集がついに発売! 本会代表が6年にわたり撮りためた写真から100点あまりを掲載。子どもたちの生き生きとした表情、山の学校の様子、ポーランド村の四季折々などが、よりビビッドに描かれています。発売は8月末を予定。どうぞお手にとつてご覧ください。



『My name is... 世界にひとつだけの名前』

My name is... プロジェクト編 角川書店 952円(税別)

「僕の名前はザイタワ・ピリです。チェワ語でありがとうという意味です。家族の中で最初に生まれたから、ありがとうと名づけられたのだと思います。…」
両親や周りの人たちの愛の結晶・名前。世界43か国から166人が、自分の名前の由来を紹介した一冊。本の収益金の一部は、アジア、中南米、中東、アフリカ地域を支援する非営利団体に寄付され、本会もそのひとつとして選ばれました。



事務局から

- 『My name is... プロジェクト』に応募し、支援金10万円をいただきました。支援金は、早速5月の現地訪問時に、発電機、教室の蛍光灯等の購入費に充てられました。
- 子ども用手袋・靴下のご提供ありがとうございます。おかげさまで数が揃いましたので、手袋212組、靴下181足を7月末サフダル校長宛に船便で送りました。
- 会費の納入をお願いします。分割払い会員で2006年度会費未納の方と、今年1~3月に入会された方に郵便振替用紙を同封しました。ご確認の上、指定期日までにお振り込みください。
- ポストカード1・2集(各3枚、1セット500円)を通信販売中! どうぞご利用ください。購入方法の詳細は、ホームページ、または本誌4,6号をご覧ください。
- 書き損じはがき・不要切手をたくさんの方からご提供いただき、大変助かっています!! 引き続きご協力をお願いします。
- 住所、氏名等を変更された場合は、必ず事務局までお知らせください。

年に3回「ばあーの日」

一緒に会報の発送作業をしませんか?

東京近郊にお住まいの方(もちろんそれ以外でも!)で、封入や切手貼り等の作業のボランティアをしてくださる方はご連絡ください。発行月は原則として4・8・12月。作業日が決まり次第、ホームページでお知らせします。遊びに来てくださるだけでも歓迎。スタッフや会員同士の情報交換の場として、またご友人への会の活動紹介の場としてご利用ください。お待ちしております!

ポーランドの小さな仲間たち

※写真は、カティープくんは06年、他の3人は05年に撮影したものです。



●Shikiba
シケバちゃん(8歳)2年
将来の夢: 医者



●Mirwas
ミルワイスくん(12歳)6年
将来の夢: 大臣



●Kazb
カティープくん(8歳)1年
将来の夢: 道路建設技師



●Shamina
シャミーナちゃん(10歳)3年
将来の夢: 医者

山の学校の図書コーナー充実のため、子ども向けのベルシャ語の本を探しています。絵本から長文の読み物まで。ご協力いただける方はフックス、またはメールにてご連絡ください。

●子どもたちに直接支援が届くこと、うれしいです。(C.T.さん)
●ホームページ、いつも見ています。だいぶステキになってきましたね。(R.M.さん)
●6月3日の長倉さんの講演とスライド「戦禍をのりこえて」を見ました。ほんの気持ちですが、早速会員にならせていただきます。また機会があればアフガニスタンの子どもたちの写真を見たいです。(K.A.さん)

●7号で、神戸でパベル展が開催された報告を見ました。私も展示会をしたいと思っています。喫茶店など小スペースという方法もあるとのことですが、大きいスペースでしたいと思っています。でもその前に賛同者を見つけ、ゆつくりとパベル展開催の夢に向かっていきたいと考えています。(N.T.さん)
●7号の表紙のマリナちゃんの写真が印象的です。わが子の幼いころを思い出します。1人でも多くの子どもが同じような笑顔になれるように。(N.S.さん)

皆様からのおたより

Q&A

寄せられたご質問から

ホームページのリニューアル & メールアドレス開設!

info_yamanogakko@yahoo.co.jp

ホームページがもっと見やすくバージョンアップ! 事務局へのお問い合わせなどをメールでも受け付けられるようになりました。まだテスト段階ですので、対応に多少時間がかかることもあるかと思いますが、どうぞご利用ください。

Q 知り合いに会のことを紹介したいので、チラシと振替用紙を送って欲しいのですが。
A 「アフガニスタン山の学校支援のお願い・支援申込書」はホームページからダウンロードできますので、どうぞプリントアウトしてご利用ください。郵送もできますので、ご希望枚数を事務局までお知らせください。振替用紙は郵便局備え付けの通常振替用紙もお使いいただけます。口座番号は、本誌の編集後記欄、本会連絡先に記載してあります。

ハーン君の事故に思うこと

本誌4号「ポーランドの小さな仲間たち」にも登場してくれた、山の学校のモハammad・ハーン君が亡くなりました。

「隣家の壁の中に隠していた地雷が爆発」。その第一報を電話で耳にした時、私はすぐに返事ができませんでした。毎日元気に学校へ通い、家の手伝いをする子どもたちの姿ばかり心に描いていましたが、甘くはないアフガニスタンの現実を思い知らされました。その後、原因は地雷ではなく弾薬だったらしいとのことでしたが、今なお、武器がアフガニスタンの子どもたちを苦しめている現実胸が痛みます。その中でもいちばん被害が多いのが「対人地雷(以下、地雷)」です。

世界には、約6000~7000万個の地雷が埋められていると推定され、1年間の被害者は約1万5000~2万人に及ぶそうです。1997年に「対人地雷全面禁止条約(オタワ条約)」が締結されてから、多くの国々が全廃に取り組み始めましたが、国連常任理事国でもある中国・ロシア・米国は参加していません。(日本もかつて地雷を製造していましたが1997年に中止、翌年条約に参加しました)

アフガニスタンでは、1989年に国連が地雷対策計画を開始して以降、2002年までに240万個以上の地雷が除去されました。

しかし、いまだ1日150~300人もの被害者が報告されているのも事実です。山の学校も決して例外ではなく、用務員のメザメディンさんも被害に遭っています。

地雷は1個たった1ドルで製造できますが、地中からその1個を取り除くのに1000ドル(!)もかかるそうです。生産国には前述の中露米3か国が含まれますが、大國でつくられ、アフガニスタン、アンゴラ、カンボジアなど経済的に豊かでない国々が被害を受けるという、ゆがんだ社会構造も見え隠れします。日本にいる私たちが地雷問題に直接関わるのは難しいことですが、正しい知識を持ち、世界の動向を注視することはできます。全面禁止に向けて歩み始めた国際社会が決して後戻りすることのないよう、関心を持ち続けていきたい、そう強く思っています。

(岩動 奏)

※文章中の数値は、国連関連団体、外務省、地雷廃絶国際キャンペーン(ICBL)等のホームページを参考にしました。詳細は以下をご参照ください。

www.unops.or.jp/japanese/project/afghanistan.html

www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/cwd/top.html

www.icbl.org/

長倉洋海

最近&今後の活動

●写真集

『アフガニスタン 山の学校の子どもたち』

協成社 8月末発行

●写真集『西域の貌(仮題)』

山と溪谷社 12月上旬発行

●写真展 12/7~18

「長倉洋海の見たシルクロード」

紀伊國屋画廊(東京)

電話: 03(3354)7401

ギャラリートーク有

話そう! ダリ語

チェトゥル ハステイド?(お元気ですか?)

アフガニスタンではお茶(チャイ)が日常的によく飲まれます。

今回は茶店でお茶をオーダーしてみましょう!

チャイハナ
茶店

チャイ ビヤワリッド
「お茶を持ってきてください」

シールチャイ ベデヒッド
「ミルクティーをください」

چای خانه

چای بیاورید

شیرچای بدهید

برا بدهید
「砂糖をください」

چای سِیاه
「紅茶」

چای سبز
「緑茶」

بوره بدهید

چای سیاه

چای سبز

※ダリ語は
右から左に読みます

山の学校 ふちとぎやうかい

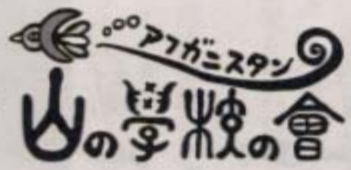
4年生「半球」
この絵を日本の子どもたちに贈ります。



- 1 牛を放牧させるナエマ (3年)
- 2 放牧を終えたアミン (2年)
- 3 斜面の石を取り除いて整地する、ラハマディン (4年) と アミルディン (1年) 兄弟
- 4 ゴルムラー (アフガン版鬼ごっこ) をするショワイブ (3年)
- 5 放牧に山に向かうアミン、ローヤ (4年)、ナフィサ (4年)
- 6 リンゴの輪を使って計算をする、ナビ (1年)
- 7 真剣に勉強する4年生のクラス
- 8 ソイー (セリのような山菜) を大きさに分ける、マフィン (3年)
- 9 下の町バザラクにて、イスラムのお祝いで、昼をこらそうになる。
- 10 カブールからの転校生ナスリア (3年)
- 11 図書コーナーの前で、読書の授業
- 12 雪渓の雪を持ち上げる子どもたち
- 13 肩を組んで、仲良く登校



アフガニスタン 山の学校支援の会



〒187-0032
東京都小平市小川町 1-1071-15 比留川 気村
FAX / 留守番電話: 042-345-7805
URL: www.h-nagakura.net/yamanogakko info_yamanogakko@yahoo.co.jp
郵便振替口座: 00160-1-667404

編集後記
皆さん、こんにちは！お元気ですか？今回はアンケートを同封しました。会報をよりよいものにしていくために、できるだけ多くの方からご意見を伺いたいと思います。編集スタッフ一同、皆さんからの返事をお待ちしています！
木岡真紀
題字・イラスト・近藤理恵
デザイン・原純子 (W.O. DESIGN)
印刷・(有)アドテック

「アフガニスタン山の学校支援の会」は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パンシール渓谷ポーンデ村の子どもたちの教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。